

## 2. 研修プログラムの開発・提供

第2期の基本方針に基づき、20本の研修プログラムを提供した。今年度のプログラム参加者総数は363名であり、事後アンケート回答者の90%以上が「満足」と回答した。

※各プログラムの内容やアンケート集計結果等の詳細は、P.23～44に記載

(本拠点の研修プログラムの特徴)

1. FD/SD/IRの専門家・実践的指導者になりうる人材の育成に力を入れている。
2. FD/SD/IRの各種プログラムを実施している。
3. 新人からベテラン、リーダーまであらゆる立場の教職員にとって日々の業務改善につながる実践的な内容である。
4. 数多くのプログラムは、講義形式だけでなく、講師と受講者の間で行う対話形式や、受講者間のディスカッションによるワークショップ形式等の双方向型で実施されている。

特に、7月7日(土)～8日(日)に愛媛大学で開催した「ティーチング・ポートフォリオ(TP)作成ワークショップ」では、18名の教員がメンタリングを受けながら実際にTPを作成した。受講者からは、「担当メンターは元々の学問分野に近いこともあり、こちらの現状を理解し適切なアドバイスをいただけた」「自分のまとまりのない意見を吸い上げてくれ、自分の教育理念を整理することができた」「話しているうちに、思考がまとまっていく感覚があった。懇切丁寧な対応に感謝したい」等の感想が寄せられ、TP及びメンターの意義を実感していただくことができた。

なお、今年度は、外国人教員を対象とした英語版TP作成ワークショップも3月に開催する予定である。具体的には、研修スケジュールや各種資料の英語版を提供するほか、メンタリングも英語で行うこととしている。

また、12月7日(金)～8日(土)に、「スタッフ・ポートフォリオ(SP)作成ワークショップ」を大学コンソーシアムえひめとの共催で愛媛大学にて開催し、中四国及び東北地方から職員6名の参加があった。参加者はSPについての理解を深め、自己を振り返り、メンタリングを通してキャリアビジョンを明確にしながらSPを作成した。事後アンケートでは、「SPを作成してよかった」との回答が得られただけでなく、メンタリングにより、自身の強みやビジョン、ゴールの明確化が促されたとして、SP作成時に果たすメンターの役割の重要性が改めて示された。

さらに、SP等の取組についてのインタビュー調査を受け、他大学に先駆けて導入された職員育成の先進事例として、大学職員の人的資源管理に関する論文にその内容が取り上げられた。近年、訪問調査においてもSPに関する質問が増えており、人材育成のためのツールとしての認知度が徐々に高まってきていることが窺える。

## 教職員能力開発拠点が提供する研修プログラム(平成30年度)

日程	プログラム名	対象	受講者数	満足度
1 5月8日(火)	ジグソー学習法入門	FD	9	100
2 5月10日(木)	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用－	FD/SD	5	100
3 5月17日(木)	アクティブラーニング入門セミナー	FD/SD	15	100
4 5月17日(木)	効果的なeラーニングの活用方法(超入門編)	FD	4	75.0
5 5月18日(金)	学習評価の基本	FD	14	92.9
6 6月14日(木)	大学のガバナンスの理解	FD/SD	12	91.7
7 6月14日(木)	カリキュラム・マネジメント	SD	7	100
8 6月15日(金)	教職協働の高度化	FD/SD	11	90.9
9 6月15日(金)	OJTの実践	SD	4	100
10 6月30日(土)～7月1日(日)	第30回授業デザインワークショップ	FD	15	100
11 7月7日(土)～8日(日)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	18	83.3
12 8月20日(月)	講義のための話し方入門	FD/SD	11	100
13 9月4日(火)	3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の開発と一貫性構築手法	FD/SD	24	100.0
14 9月11日(火)	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門－ARCS動機づけモデルの活用－	FD/SD	6	83.3
15 10月17日(水)～19日(金)	SDコーディネーター養成講座 in 大阪	SD	22	100
16 10月17日(水)～19日(金)	IRer養成講座 in 大阪	FD/SD	40	96.8
17 12月3日(月)	SDC養成講座フォローアップセミナー	SD	7	100
18 12月7日(金)～8日(土)	スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ	SD	6	100
19 12月13日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	FD/SD	41	100
20 3月6日(水)	愛媛大学教育改革シンポジウム	FD/SD	92	96.2
		合計	363	95.7

## ジグソー学習法入門

### 【実施概要】

#### ▶講師

村田晋也（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

平成30年5月8日（火） 10:00－12:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

9名〔学内9名〕

#### ▶目標

1. ジグソー学習法の基本的な仕組みについて説明できる。
2. ジグソー学習法を用いたグループワークの進め方を体験し、授業での活用を検討できる。

#### ▶内容

社会心理学者K. レヴィンをはじめとした集団力学を専門とする研究者たちによってこれまで種々実証されてきたように、グループワークは、受講者が学習に対する積極的な姿勢を抱けるよう変化を促すのに有効な手法として注目されてきました。とりわけ同手法は近年、学校教育の場で広く導入されつつあることは周知のとおりです。しかし、一言で「グループワーク」とはいても、その実践方法は玉石混濁であるのが実態です。

そこで本講では、それら数ある手法のうち、高い効果が得られるとして良く知られているやり方の1つを体験して頂ければと考えています。これは、社会心理学者E. アロンソンが1978年著書『The Jigsaw Classroom』（松山安雄訳『ジグソー学級 生徒と教師の心を開く協同学習法の教え方と学び方』）の中で提唱した「ジグソー学習法」なるもので、この学習法を用いた授業の進め方とその効果を皆さまに紹介することを本セミナーの主たる目的としています。

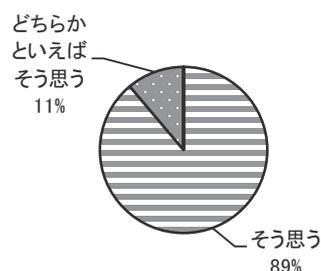


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

9名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- ジグソー学習を自分の授業に取り入れる様を想像できた。
- 自分の講義の中で使ってみようと思った。
- 講師の授業の雰囲気作りが優れており、また、内容も興味深いものであり、非常に楽しく学習できました。
- 内容が授業づくりに生かせるものであった。

〔この研修の改善点〕

- もっと難易度の低い教材だと分かりやすいと思いました。



# 【FD/SD】

## 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 — 課題分析図の活用 —

### 【実施概要】

#### ▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

平成30年5月10日（木） 13:00 - 15:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

5名[学内5名]

#### ▶目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

#### ▶内容

学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。

次に教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通じて、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。

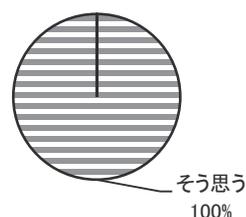


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

5名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

- 【この研修の良かった点】
- 同じグループで他の先生の課題分析をすることができたこと。
  - 授業内容を分析する視点が養えたと思う。
  - 目標の記述方法、復習のタイミング
  - 授業の構造化の方法を学ぶことができ、とても勉強になりました。
  - 授業に関する大切なポイントを吸収できました。

#### 【この研修の改善点】

- 3人以上のグループがよいと感じました。



# 【FD/SD】

## アクティブラーニング入門セミナー

### 【実施概要】

#### ▶講師

中井俊樹（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

平成30年5月17日(木) 13:00 - 15:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

15名 [学内12名・学外3名 愛媛県立医療技術大学(1)、  
高知工科大学(1)、今治明德短期大学(1)]

#### ▶目標

1. アクティブラーニングが必要な理由を述べることができる。
2. アクティブラーニングの技法のメリット・デメリットを具体的に説明できる。
3. 自ら担当する授業で活用できそうなアクティブラーニングの技法を列挙することができる。
4. アクティブラーニングの技法を効果的に実践することができる。

#### ▶内容

1. 意義ある学習とは
2. アクティブラーニングを理解する
3. 学習課題を組み立てる
4. 発問で思考を刺激する
5. 経験を学習に変える
6. 学生を相互に学ばせる

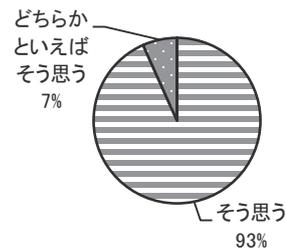


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

15名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 授業に実際に応用できる手法が、理論的にも、獲得・確認できました。この講座自体がアクティブラーニングを具現されていました。大変楽しい講座でした。
- 「問われると人は考える」ということが、バグ・クロージャーの例を通じて改めて実感できた。担当授業内でも発問をもう少し増やしていきたい。
- 豊富な文献の紹介をいただきました。

〔この研修の改善点〕

- アクティブラーニングについて学生はどう思っているのか、理解能力は高まったのかのデータも紹介してほしいかった。アクティブラーニングを取り入れると授業内容が薄くなるような授業レベルが下がるような気もしています。マイナス面も教えてほしいかったです。



## 効果的なeラーニングの活用方法(超入門編)

### 【実施概要】

#### ▶講師

仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

#### ▶日時

平成30年5月17日(木) 15:15 - 17:15

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

4名[学内3名・学外1名\_高知工科大学(1)]

#### ▶目標

1. eラーニングとは何か説明できる。
2. 実践事例からeラーニングを授業に取り入れる際の効果的なポイントが説明できる。
3. eラーニング要素を活用して自身の授業での課題解決に向けた対策を考えることができる。
4. 自身の授業で使えるヒントやアイデア等を一つ以上持ち帰ることができる。

#### ▶内容

大学等において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみたい」「有効な活用方法を知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「実はeラーニングとは何かがわからない」という方に対して、実際に授業で活用されている様々な事例を紹介するとともに、ワークショップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。

1. eラーニングとは
2. 広義・狭義のeラーニング
3. 実践事例の紹介(動画教材・テスト機能・ディスカッション機能・課題提出機能(振り返り)等)
4. eラーニングを取り入れた授業計画案作成に向けて、グループワークによる検討を行う。

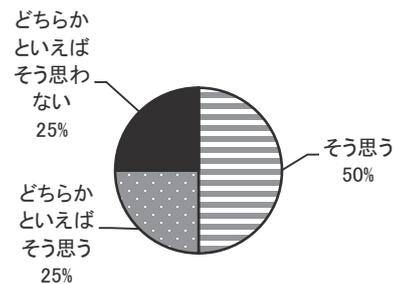


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

4名(100%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

- Moodleを自分の授業で活用することを考えていなかったが、意外に使えるということが分かった。
- インターネット、パソコンは、教育現場においても必需品。それを利用したeラーニングは、今後もますます進化するものである。今回のこの講座により、eラーニングを理解できました。自身の講座にも時間はかかるが取り入れたい。

##### 【この研修の改善点】

- Moodleの使い方も知りたいと思ったが、秋の授業で受講できるようなので受けようと思う。



## 学習評価の基本

### 【実施概要】

#### ▶講師

中井俊樹（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

平成30年5月18日（金）10:00－12:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

14名〔学内13名・学外1名\_聖カタリナ大学(1)〕

#### ▶目標

- (1) 学習評価の意義と目的を説明することができる。
- (2) 到達目標にあわせた評価の方法・基準を選択・設定できる。
- (3) 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。
- (4) 公正で厳密な成績評価を行うことができる。

#### ▶内容

オリエンテーション

1. 学習評価の目的
2. 学習評価の主体
3. 学習評価の対象
4. 学習評価の基準
5. 学習評価の方法
6. 優れた評価の条件
7. 作問の具体的方法
8. 評価のさまざまな側面

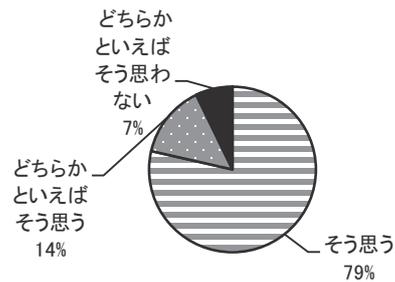


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

14名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- レポートに、考えないといけない課題を課すというところで、複数の方法を知ることができて、よかったです。
- 学習評価の基本を様々な角度から解りやすく説明してもらった。授業で学んだ「学生を育てる評価こそが重要」という言葉は至言である。これを念頭に置いて、評価する指針とします。
- 評価の基本や方法・工夫など、他分野の先生方と意見交換ができ、有意義だった。
- It 's good to review the different ways and aspects of evolution.

〔この研修の改善点〕

- 評価方法の実習(良いレポートと悪いレポートの例を示すなど)があってもよいのではないかと思います。



## 大学のガバナンスの理解

### 【実施概要】

#### ▶講師

中井俊樹（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

平成30年6月14日(木) 10:00－12:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

12名[学内10名・学外2名\_弓削商船高等専門学校(1)、  
新居浜工業高等専門学校(1)]

#### ▶目的

1. ガバナンスとは何かを説明できるようになる。
2. 大学のガバナンスの特徴と課題を説明できるようになる。
3. 大学の教職員の行動原理の特徴を説明できるようになる。
4. 大学のガバナンスのモデルを理解し、実際の大学の組織運営に活用することができる。

#### ▶内容

1. ガバナンスとは何か
2. 大学のガバナンスの論点
3. 大学教員の特徴
4. 大学の組織的特徴
5. 大学のガバナンスのモデル

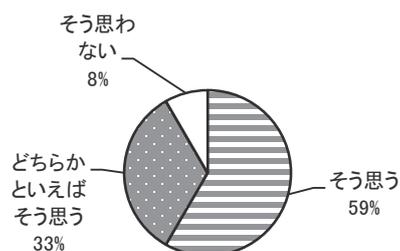


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

12名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 〔この研修の良かった点〕

- ガバナンスについて学ぶ過程で、国立大学法人制度上のガバナンスの考え方に対する理解が深まった。「専門家に求めるのは成果だけでいい」という言葉には納得できた。
- 官僚制について考えるきっかけをもらった。
- 大学をどのような視点で見ればよいかを理解でき、決定のための選択肢の幅が広がった。
- ワークシートを使っただけの作業と、その後の意見交換、講師の解説と段階を踏んでいく手法は良く、知識の定着ができました。講師の授業運びがうまく、2時間があっという間でした。

##### 〔この研修の改善点〕

- 状況はよくわかったが、結局どうするべきなのか、大学としてどういう方針なのか分らなかった。
- 5つのシステムの議論をもう少ししたかった。



## カリキュラム・マネジメント

### 【実施概要】

#### ▶講師

清水栄子（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

平成30年6月14日（木） 13:00 - 15:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

7名〔学内7名〕

#### ▶目標

本研修では、大学におけるカリキュラムおよびカリキュラム・マネジメントの理解を深め、業務での活用を目指しています。

- 1 カリキュラムとは何かを説明できる。
- 2 カリキュラム・マネジメントとは何かを説明できる。
- 3 研修の内容を所属大学におけるカリキュラム・マネジメントに応用することができる。

#### ▶内容

- ・カリキュラムマネジメントとは
- ・大学のカリキュラムの特徴
- ・設計、実施、評価、改善
- ・カリキュラムマネジメントの課題
- ・優れた実践の紹介

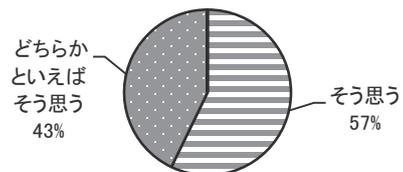


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者（回答率）

7名（100%）

#### ▶満足度：全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- カリキュラム・マネジメントについて具体的にイメージを持つことができました。“コース”を意識して授業を開発していきたいと思います。
- 他学部の話も知る事ができたので、自分の学科だけでなく比較することができた。
- カリキュラム・マネジメントのPDCAの必要性について考えることができた。

〔この研修の改善点〕

- 完成物のカリキュラムマップを見ただけで、「それをどう直すか」という考え方になってしまったので、実際にカリキュラムマップを作った人が、何を考えて作ったかという話がほしかった。



## 教職協働の高度化

### 【実施概要】

#### ▶講師

丸山智子(愛媛大学学生支援センター)

#### ▶日時

平成30年6月15日(金) 10:00-12:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

11名[学内10名・学外1名\_弓削商船高等専門学校(1)]

#### ▶目標

1. 教職協働とは何かを自分の言葉で述べられるようになる。
2. 教職協働を実行するために教員及び職員の特性を知ることができる。
3. 教職協働を阻害・促進するものは何かを理解することができる。
4. 教職協働の必要性を理解し、教員と職員の相互理解を推進することができる。

#### ▶内容

本研修では、「教職協働とは何か」「教職協働はなぜ必要か」について、深く考える機会とします。また、協働が成立するための条件や、業務の中で促進していくための具体的な行動を理解し、自らの大学における教職協働の実践へ応用することを目指します。

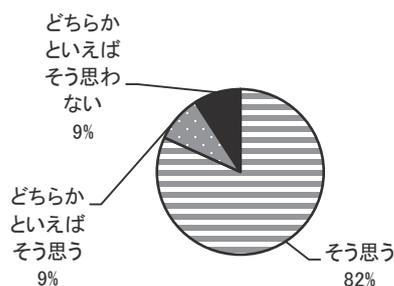


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

11名(100%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

- 今後の教員生活で、生かしていける内容でした。準備などありがとうございました。
- 事務の方の話、他の学部の方の話など、他の人の考え方や状況も聞けたので、いろいろな視点から教職協働を考えられた。
- 教職協働に向けて、その障害になっているもの、どのような意識を持てば、障害を解決できるか理解できた。
- ワークシートが準備してあり、考えをまとめるのに役立ちました。意見交換の場が多くとられ、刺激になりました。

##### 【この研修の改善点】

- 教職協働の言葉の定義、今ある問題点がそもそも分からないので、そこを先に教えてもらえると、とっつきやすかったです。
- 何度も実施し、教員と職員が「本音」で話せる研修が実現できればと思います。教職協働、職職協働というような研修もあればよいと思います。



## OJTの実践

### 【実施概要】

#### ▶講師

阿部光伸(愛媛大学学生支援センター)

#### ▶日時

平成30年6月15日(金) 13:00 - 15:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

4名[学内4名]

#### ▶目標

OJTに関する基本的な知識を身につけるとともに、OJTを進めるために必要な手法を学ぶことを目的とし、以下の能力を身に付ける。

- (1) OJTの必要性について説明することができる。
- (2) 効果的にOJTを進めるための手法を身につけることができる。
- (3) 効果的なフィードバックを行うことができる。

#### ▶内容

1. 人材育成(OJT)の目的と必要性について
2. OJTの進め方～経験学習の促進～
3. OJT計画表作成ワーク
4. フィードバックについて
5. まとめ/リフレクション

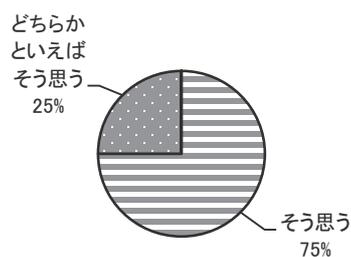


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

4名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

- 〔この研修の良かった点〕
- 本研修を通して、これまでの学生との関わりを振り返ることができました。資料等の準備、ありがとうございました。
  - 出席者に応じた授業をしていただいた。熱意ある指導は説得力があり、今後の参考になりました。



## 第30回授業デザインワークショップ

### 【実施概要】

#### ▶講師

小林直人, 中井俊樹, 仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

#### ▶日時

平成30年6月30日(土) ~ 7月1日(日)

#### ▶場所

いまばり湯ノ浦ハイツ

#### ▶参加者

15名[学内10名・学外5名\_徳島文理大学(1), 人間環境大学松山看護学部(1), 岡山理科大学獣医学部(2), 松山東雲短期大学(1)]

#### ▶目標

1. 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
2. さまざまな授業方法の特徴を理解し, 学習目標に適した授業方法を選択できる。
3. 教育評価の原理と種類を理解し, 学習目標に適した評価方法を選択できる。
4. アクティブラーニングを取り入れた90分の授業の計画を作成できる。
5. 作成した授業計画案にもとづいて模擬授業を実践できる。

#### ▶内容

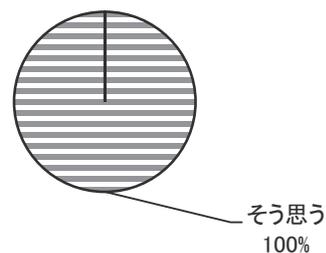
1. オリエンテーション
2. アイスブレイキング
3. ミニ講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するのか」
4. ミニ講義Ⅱ「コース設計&クラス設計の考え方」
5. ミニ講義Ⅲ「シラバスの書き方」
6. グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」
7. グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」
8. ミニ講義Ⅳ「様々な授業方法」
9. グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」
10. ミニ講義Ⅴ「学習評価の基本」
11. 中間発表
12. ミニ講義Ⅵ「クラス設計」
13. グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」
14. グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」
15. 模擬授業
16. 閉会式

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

14名(93.3%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

- 学生を惹きつけ, 学ぶ意欲を高めるような授業デザインを学びました。早速, 数日後に行った授業に大変役に立ちました。
- 授業一つでも, 様々な手法やテクニックがあり, 同じ講義内容でもそれらを活用すれば受ける側の興味や学習レベルがまったく変わってくるということを改めて勉強できた。普通の講義でいきなりいろいろと取り組むのは難しいが, 少しずつ取り入れてTry&errorを繰り返し, 自分の授業を作っていきたいと思った。



# 【FD】

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

### 【実施概要】

#### ▶講師

奥本良博, 川畑成之(阿南工業高等専門学校)  
小林忠資(岡山理科大学)  
長崎睦子, KAWAMOTO JULIA MIKA, Zhou Wei  
(愛媛大学英語教育センター)  
小林直人, 中井俊樹, 仲道雅輝, 清水栄子  
(愛媛大学教育企画室)

#### ▶日時

平成30年7月7日(土) ~ 8日(日)

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2 他

#### ▶参加者

18名[学内18名]

#### ▶目標

1. ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは何かを理解する。
2. TPの必要性・有効性について知る。
3. TP作成の要点と手順を理解する。
4. TPを作成する。

#### ▶内容

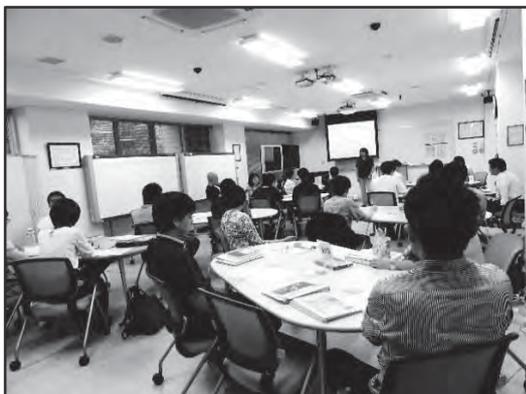
2日間を通しての参加となります。メンターによるメンタリングを行いながら作成します。

##### <1日目>

1. オリエンテーション
2. 昼食会
3. 意見交換
4. メンタリング
5. TP作成作業  
情報交換会(任意)

##### <2日目>

1. TP作成作業
2. メンタリング
3. 昼食会・意見交換
4. TP作成作業
5. TP披露・修了式

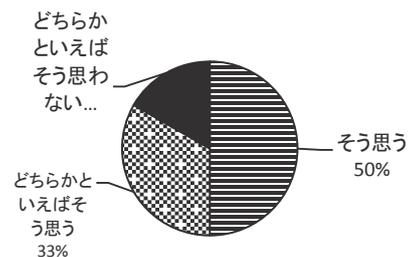


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

18名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

- 事前課題はとても役立ちました。ただ、実際に作成するティーチング・ポートフォリオの構成(教育の責任, 理念, 方法, 成果, 目標)を最初から提示し, それに従って書かせるという方法の方が, もしかすると, 当日のワークのためには有意義であるようにも思いました。
- スタートアップ・シートで記入したことを, 当日のポートフォリオに反映しづらかったので, もっと連動した内容にいただけると, 当日の作業が楽になると思います。
- 人によって, 作成の仕方が多様であると感じました。メンタリングを行う際には, さまざまなメンターの指導方法やメンティの考え方を覚えておく方がよいのであろうと思いました。
- 自分がこれまで気づけなかった教育観を知ることができた。これにより, 今後の教育活動の励みになりそうである。



## 講義のための話し方入門

### 【実施概要】

#### ▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)  
飯島永津子(愛媛大学医学部教育協力者)

#### ▶日時

平成30年8月20日(月) 13:00 - 15:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

11名[学内5名・学外6名\_愛媛県立医療技術大学(2),  
人間環境大学松山看護学部(2), 聖カタリナ大学(2)]

#### ▶目標

1. 「学生中心の大学」の実現のために“良い”授業ができるようになる。  
⇒“良い”授業とは？
  - ・わかりやすい授業
  - ・知的な緊張感のある授業
  - ・学生が積極的に参加し自ら考える授業
2. 講義をするときに注意が必要な話し方のコツを、講習中の実習を通して習得し、習得したことを自分の授業に生かすことができる。

#### ▶内容

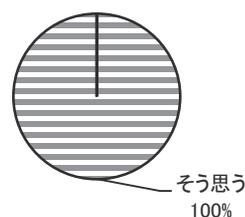
1. イントロダクション
  - ・本日のメニュー
  - ・本日の目的と目標
2. 講師が気をつけていること
  - ・学生にとってわかりやすい話し方とは？
  - ・どうしたらわかりやすい話し方ができるか？
  - ・発音しにくい言葉
  - ・区別しにくい言葉
3. 実例を元に演習
  - ・聞き手が理解しやすい話し方
  - ・どう話すか？の前に何を話すか？
4. 休憩とストレッチ
5. 外部講師(教育協力者)による発声練習
  - ・大きな声を出すためには？
  - ・はっきりと発音するためには？
6. まとめ・セルフアセスメント
  - ・あらためて、「良い」授業とは？
7. 質疑応答

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

11名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

- 今日から使えるテクニックの知識やエクササイズ方法を学べた。個別指導をしていただき、具体的アドバイスをいただけたので、自分の課題が明確になった。今後、講義を行う意欲が高まった。
- 滑舌が悪いのと声が通りにくいのが気になっていたのですが、その改善のため継続して長音と滑舌の練習をするということを知ったので良かったです。
- 自分の苦手だった部分(早口になる、表情が硬いなど)の対処法を知れた。長音、発音などの練習になった。
- 普段の学生への接し方を見直すことや、自分の話し方について考えることができました。



# 【FD/SD】

## 3つのポリシー(ディプロマポリシー, カリキュラムポリシー, アドミッションポリシー)の開発と一貫性構築手法

### 【実施概要】

#### ▶講師

小林直人(愛媛大学教育企画室)

#### ▶日時

平成30年9月4日(火) 10:00-12:00

#### ▶場所

遠隔配信

#### ▶参加者

遠隔システム1名[学外1名\_愛媛県立医療技術大学(1)]  
DVD受講 23名[学外23名\_高知工業高等専門学校(7),  
聖カタリナ大学(6), 聖カタリナ大学短期大学部(2),  
徳島文理大学(8)]

#### ▶目標

中央教育審議会大学分科会大学教育部会が示した(平成28年3月31日)「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」に基づき, 所属する大学等の「3つのポリシー」の原案を策定できる。

#### ▶内容

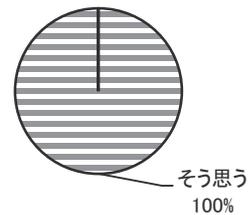
1. 大学等に求められている「3つのポリシー」を策定する際には, 「学力の3要素」に含まれる内容を網羅する必要がある。これに関連して, 「3つのポリシー」を誰が読むのか, 誰に向けて発信するのかを考える。
2. それぞれの大学等の「建学の精神」「大学憲章」と「3つのポリシー」とがどのように関係するのか, 大学と学部の「3つのポリシー」の関係性をどうするのか, それらの階層性を規定する必要がある。
3. ディプロマ・ポリシー(DP)の具体例を紹介する。
4. カリキュラム・ポリシー(CP)の具体例を紹介する。
5. CPを具体的に表現するための, 「履修系統図」などのツールを紹介する。
6. アドミッション・ポリシー(AP)の具体例を紹介する。  
特にAPは「学力の3要素」との関連づけを強く求められている。
7. 「4つ目のポリシー」として, 教育学習効果を測定するためのアセスメント・ポリシーを構築する必要性を考える。
8. 「3つのポリシー」の一貫性を構築する手法について考える。

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

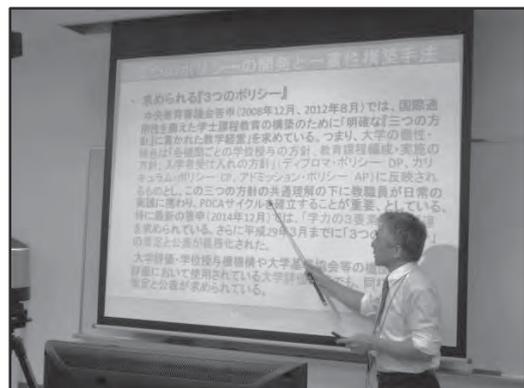
遠隔システム 1名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

- 〔この研修の良かった点〕  
○具体的でわかりやすかった。



# 【FD/SD】

## 学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門 —ARCS動機づけモデルの活用—

### 【実施概要】

#### ▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育企画室）

#### ▶日時

平成30年9月11日（火） 13:00 – 15:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

6名〔学内4名・学外2名\_聖カタリナ大学(2)〕

#### ▶目標

1. 「インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法(ARCS動機づけモデル)を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

#### ▶内容

本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン(教育設計)(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけるための手法(ARCS動機づけモデル)や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

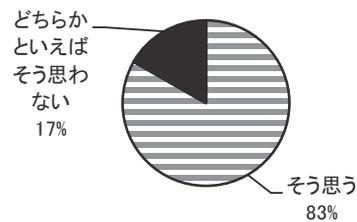


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

6名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 自分の授業に対する問題とその対策について、深く考えることができた。
- 授業の動機づけを考えて、クラス設計する意欲が高まりました。
- 自分自身の授業の問題について例を挙げ考える機会が多く、業務に直接つなげやすいと感じた。
- 授業の動機づけを考えて、クラス設計する意欲が高まりました。

〔この研修の改善点〕

- ペアを何回かチェンジすると、いろいろな人の問題が知れたと思う。



## SDコーディネーター養成講座 in 大阪 1/2

### 【実施概要】

#### ▶講師

塩川雅美(大学コンソーシアム大阪/大阪市立大学)  
井川貴通(桃山学院教育大学)  
葛西崇文(青森中央学院大学)  
小林直人, 中井俊樹, 上畠洋佑, 吉田一恵, 砂田寛雅,  
吉松明子(愛媛大学)

#### ▶日時

平成30年10月17日(水)～10月19日(金)

#### ▶場所

関西大学梅田キャンパス

#### ▶参加者

22名[学内3名・学外19名 東日本国際大学(1), 共立女子大学(1), 芝浦工業大学(1), 新潟大学(2), 仁愛女子短期大学(1), 皇學館大学(1), 京都産業大学(1), 京都文教大学(1), 関西大学(1), 四條畷学園大学(1), 大阪学院大学(2), 大阪経済大学(2), 大阪産業大学(1), 大阪青山大学(1), 大阪電気通信大学(1), 奈良芸術短期大学(1)]

#### ▶目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる。
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために、その構築手法を修得することができる。
3. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる。
4. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる。
5. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる。
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることことができる。

#### ▶内容

##### 〈1日目〉

SD, SDCについて理解する  
人材育成ビジョンの必要性について理解する  
組織の人材育成ビジョンワークショップ

##### 〈2日目〉

SP, メンタリングの導入事例及びその有効性についてメンタリングを実践する  
個人のビジョン作成ワークショップ  
SDプログラムを企画・運営する  
SDプログラムを評価する  
SDプログラムを開発する

##### 〈3日目〉

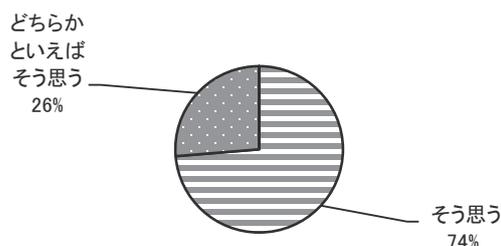
SDプログラム発表

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

19名(86.3%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 【この研修の良かった点】

○自分の大学や自分の業務・考え方について、深く考える機会になった。これまで自大学のSDのあり方について疑問があったので、この学びを活かして大学に提案していけると思う。

○人材育成ビジョンの具体的な作成方法について学べたのが良かった。本学でも今まさに人材育成ビジョンの叩き台をつくっているところで、大変参考になった。

○人を育てていく大切さを改めて実感することが出来ました。非常に参考となり、SDの大切さを知ることが出来ました。

##### 【この研修の改善点】

○もう少しスタッフ・ポートフォリオについて詳しいレクチャー及びワークがあるか、逆に研修プログラムのコーディネートに関する内容に重点を置くかという風にしても良いのではと思いました。

○最後の発表後の、それぞれの講評が欲しかった。

○レクチャーとワークのバランスについて、少しレクチャーが長い気がする。SPのメンタリングについて、もう少し時間を使ってほしかった。メンタリングのデモンストレーションやポイントについて解説があると良いと思った。

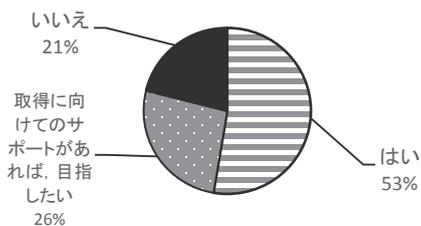


## SDコーディネーター養成講座 in 大阪 2/2

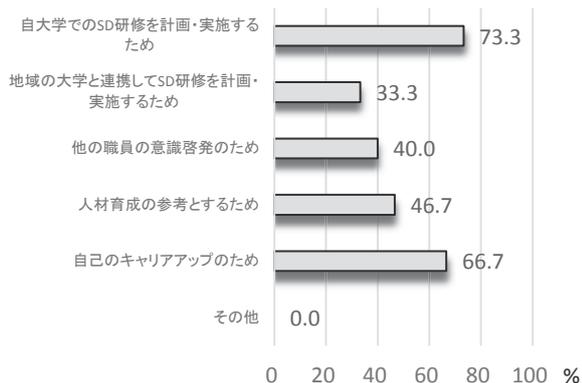
### 【アンケート結果】

#### ▶ SDC資格取得について

##### ◆ 今後SDC資格取得を目指したいか

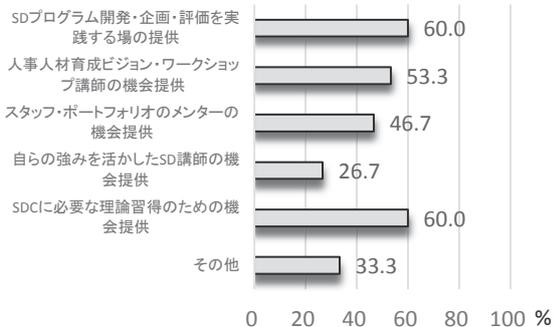


##### ◆ SDCの認定を目指す理由（複数選択可）



##### ◆ SDC資格取得に向けて必要と感じるサポート

(複数選択可)



#### ※その他の回答

SDに関する相談の場、職場の理解や協力等

### ▶コメント

#### 〔SDC資格取得について〕

- 今後、SDを実質化していく中で、意味のある研修やSPの作成などが重要になってくると思います。
- 現在の自身からでは、かなりハードルも高く感じるが、目指して行動していきたい。
- 7回以上の講師機会を作ることが出来れば、ぜひ目指したいです。



## IRer養成講座 in 大阪

### 【実施概要】

#### ▶講師

小湊卓夫(九州大学)  
 畠田敏行(茨城大学)  
 清水栄子(追手門学院大学)  
 小林直人, 中井俊樹, 竹中喜一, 上島洋佑(愛媛大学)

#### ▶日時

平成30年10月17日(水)～10月19日(金)

#### ▶場所

関西大学梅田キャンパス

#### ▶参加者

40名〔学外40名 北海学園大学(1), 日本赤十字秋田看護大学(2), 東北学院大学(1), 東北文化学園大学(1), 東日本国際大学(1), 筑波大学(1), 共愛学園前橋国際大学(1), 淑徳大学(1), 法政大学(1), 大東文化大学(2), 明治大学(1), 女子美術大学(1), 順天堂大学(1), 東京成徳大学(1), 東洋大学(1), 新潟大学(1), 松本大学(1), 名城大学(1), 名古屋学芸大学(1), 皇學館大学(1), 京都大学(2), 京都文教大学(1), 京都文教短期大学(1), 龍谷大学(1), 滋賀県立大学(2), 大阪樟蔭女子大学(1), 大阪医科大学(1), 大阪体育大学(1), 関西大学(1), 大阪成蹊大学(1), 兵庫教育大学(1), 兵庫医科大学(1), 甲南女子大学(1), 岡山商科大学(1), 福山大学(1), 鹿児島大学(1)]

#### ▶目標

1. IRの意義と方法について説明できる。
2. データの適切な管理を組織的に行う方法を説明できる。
3. 学生にかかわるデータの分析を行うことができる。
4. データ分析を基に教育や学生支援の改善提案ができる。
5. 多様な考えや経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる。

#### ▶内容

##### 〈1日目〉

IRの意義と方法を理解する  
 所属大学のIRの特徴と課題を理解する  
 IRerに必要な能力を理解する  
 データの適切な管理方法を理解する  
 IRに関する質疑応答①

##### 〈2日目〉

管理者が求める報告のポイントとは  
 実務担当者による分析のポイントとは  
 質的データを分析する  
 量的データを分析する(事前課題の振り返り)  
 IRに関する質疑応答②  
 教育・学生支援の改善提案を考える

##### 〈3日目〉

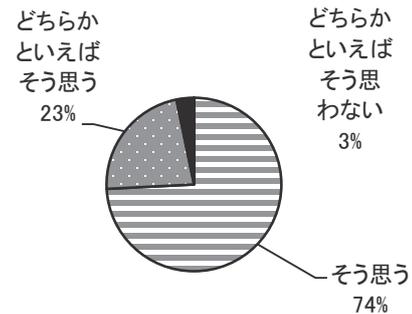
教育・学生支援の改善提案を考える(発表)

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

31名(70.4%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

##### 〔この研修の良かった点〕

- 実践的で少し難しめのワークが、学び多く刺激になった。同グループの他大学の方からも学ぶことが多かった。
- 他大学IR担当者との交流ができてよかった。
- 講師の方々の多角的な視点をうかがえたこと。
- IRの基礎的なことから、具体的な手法について学ぶことが出来た。
- 統計学について、その意義と活用のシーンをワークを通して体験することが出来ました。

##### 〔この研修の改善点〕

- 思い付きですが、グループ発表の課題を事前課題にして、反転学習的に構成してみてもどうでしょう。発表のための作業時間がタイトなのと、チームビルディングにある程度意識と労力がかかるので、共通作業が共有しやすい環境がありがたい。
- 各グループの取り組みや発表に対してのフィードバックコメントをいただけると、よりよいかと考えました。



## SDC養成講座フォローアップセミナー

### 【実施概要】

#### ▶講師

吉田一恵(愛媛大学SD統括コーディネーター)

#### ▶日時

平成30年12月3日(月) 13:30-17:00

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージーティングルーム

#### ▶参加者

7名[学内3名・学外4名\_聖カタリナ大学(3), 松山大学(1)]

#### ▶目標

1. 職員人材育成ビジョンについて説明することができる。
2. 職員人材育成ビジョンの必要性を説明することができる。
3. 職員人材育成ビジョンの作成を支援することができる。

#### ▶内容

高等教育機関における職員人材育成ビジョンの構築事例を知るとともに、その作成を支援するための手法を学ぶ

1. はじめに…
2. 人材育成ビジョンの必要性について
3. 国立大学法人愛媛大学「事務系職員人事・人材育成ビジョン」について
4. 自大学で求められる人材像を明らかにしましょう！  
(ワーク)
5. さいごに…

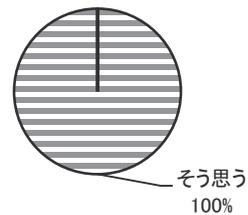


### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

7名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

【この研修の良かった点】

○求められる人材像を文章でまとめるための手法や盛り込むべき要素について、ワークを通じて理解することができた。

○組織と職員の双方が成長するための最も基本的な指針が職員人材育成ビジョンであることがわかった。

○職員人材育成ビジョンを作成する過程で、理念や目的、強みや弱みといった自大学の特徴を考える機会になった。



## スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ

### 【実施概要】

#### ▶講師

玉岡兼治(聖カタリナ大学)  
鈴木洋(芝浦工業大学)  
小林直人, 上島洋佑, 吉田一恵, 西尾澄気, 秋谷恵子  
(愛媛大学)

#### ▶日時

平成30年12月7日(金)~12月8日(土)

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス  
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2 他

#### ▶参加者

6名[学外6名\_高知県立大学(2), 東日本国際大学(1),  
弓削商船高等専門学校(1), 岡山理科大学(1),  
徳島大学(1)]

#### ▶目標

1. スタッフ・ポートフォリオのメリットについて説明できる。
2. スタッフ・ポートフォリオにおけるメンター、メンタリングの重要性について説明できる。
3. 自身のキャリアを振り返ることができる。
4. 自身のキャリアのビジョンについて考えることができる。
5. スタッフ・ポートフォリオを作成することができる。

#### ▶内容

大学職員としての自己を振り返り、メンタリングを通して今後のキャリアにおけるビジョンを明確にしなが、スタッフ・ポートフォリオを実際に作成する。

#### 〈1日目〉

1. レクチャーⅠ  
「スタッフ・ポートフォリオ(SP)について」  
「SPを作成することのメリット、組織にとってのメリットについて」  
「スタッフ・ポートフォリオにおけるメンター・メンタリングについて」

2. 個人メンタリング
3. SP作成作業
4. メンターとメンティーで振り返り

#### 〈2日目〉

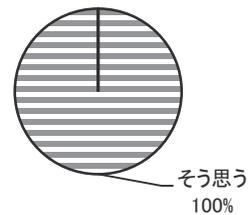
5. レクチャーⅡ 「大学職員としてのキャリアを考える」
6. SP作成作業
7. 個人メンタリング
8. SP作成作業&発表資料準備
9. 参加者全員でSP作成の振り返り

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

6名(100%)

#### ▶満足度: 全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 個人ワークを通して、自分自身の歴史を振り返ることができるのは非常に貴重な経験でした。
- 自分の思いを言葉にのせて良いこと、どんなことでもその時々での思いをのせることで、振り返りができる点などが良かったです。
- 自分のことを客観的に見ることができた。
- 自分史を作る過程に似ていた。

〔その他〕

- 相手(メンター)に見てもらい、つまり「理解しやすく記載する」という点も重要でしょう。
- 業務改善点を記入すると、上席への批判になるのではないかと思った。



## 学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

### 【実施概要】

#### ▶講師

仲道雅輝(愛媛大学教育企画室)

#### ▶日時

愛媛大会会場:平成30年12月13日(木)10:00-12:00

e-learning :平成30年12月14日(金)~平成31年1月31日(木)

#### ▶場所

愛媛大学 城北キャンパス

愛大ミュージック アクティブ・ラーニングスペース2

#### ▶参加者

愛媛大会会場:13名[学内4名・学外9名\_香蘭女子短期大学(1),  
松山東雲女子大学(3), 人間環境大学(5)]

e-learning :28名 [学外28名\_松山東雲女子大学(1), 香川大  
学(1), 人間環境大学(5), 聖カタリナ大学  
(2), 徳島文理大学(2), 今治明德短期大学  
(17)]

#### ▶目標

1. シラバスの役割を説明できる。
2. 授業の「目的」と「目標」との違いを説明できる。
3. 適切な「目的」と「目標」を書くことができる。
4. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができるようになる。

#### ▶内容

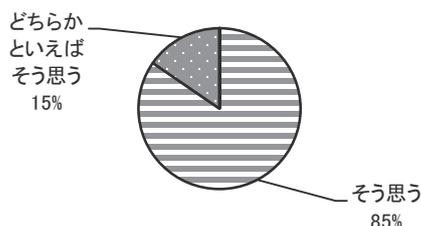
1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か?
  - ・定義
3. 授業題目
  - ・キーワードの書き方
  - ・わかりやすく書く
4. 目的の書き方
  - ・授業の目的の書き方
5. 目標の書き方
  - ・到達目標の書き方
6. 授業内容
  - ・スケジュールの書き方
  - ・無理のない進み具合
7. 授業時間外での学習を促す戦略
  - ・外発的・内発的動機づけによる学習課題に取り組ませるコツ
  - ・eラーニングを活用した学習課題に取り組ませるコツ
8. 受講条件の書き方
  - ・ニーズと授業内容のミスマッチ防止
9. 受講ルールの書き方
  - ・受講のマナー
10. 教材に関わる情報の書き方
11. 評価情報の書き方

### 【アンケート結果】

#### ▶回答者(回答率)

愛媛大会会場:13名(100%)

#### ▶満足度:全体的に満足できるものだった



#### ▶コメント

〔この研修の良かった点〕

○今まさに、シラバス作成時期ですので、大変助かりました。わかりやすい講義の工夫がなされていて、楽しく参加できました。

○プレゼンの色合いがきれいで見やすかったです。ゲー、チョコキ、パーや効果音など、普段の授業で使えるヒントも教えていただけたので良かったです。豊富な資料の御提供、有意義なグループワークの機会を与您いただき、ありがとうございました。

○評価方法や到達目標を明確にした目標の書き方は、今後特に気をつけていきたいと感じた。

○シラバスの書き方が、具体例(動詞の例)などあり、来年のシラバスに生かそうと思いました。ありがとうございました。

〔この研修の改善点〕

○シラバスの例(良い、悪い)をいくつか紹介していただきたい。



### 【実施概要】

#### ▶日時

平成31年3月6日(水) 13:10~15:20

#### ▶場所

愛媛大学城北キャンパス

・事例報告等:総合教育棟1 3階 305

・ポスターセッション:共通講義棟B 1階 CRI-1

#### ▶参加者

92名[学内85名・学外7名,岡山大学(1),松山東雲短期大学(4),一般(2)]

#### ▶目的

愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせるため、愛媛大学教育改革促進事業(愛大教育改革GP)採択課題の進捗状況及び成果を含め、学内外で評価されている本学の教育改革の取組について、広く公表し、教育内容・方法の改善に関する理解を深める。

#### ▶内容

愛媛大学では、平成18年度から、学内での優れた教育取組に支援を行う「教育改革促進事業」(愛大GP)を行ってきたが、学生の海外派遣・受入に特化した「愛媛大学国際連携促進事業」(国際GP)との発展的統合を行い、「愛媛大学教育改革促進事業」(愛大教育改革GP)として平成29年度から再スタートした。本シンポジウムは、採択取組の進捗状況と成果について情報発信することを目的に、毎年開催している。主に、採択取組のポスターセッションと講演を中心にっており、特にポスターセッションでは、その場での質疑応答を通じて、取組担当者の生の声を聞くことができる。

1. 愛媛大学の教育改革促進事業について
2. 学内の教育改革の事例報告
  - ①事例報告
    - 社会共創学部
    - 「ディプロマサプリメントの作成の現状と課題」
  - ②質疑応答
3. 愛媛大学教育改革促進事業採択取組の実施総括(ポスターセッション)

ポスターによる発表、参加者との質疑応答を通じ、発表者・参加者双方が教育内容・方法の改善に関する理解を深める。また、学生や一般参加者に対しても、愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせる。

- ・平成29年度採択グループ:2年間の実績報告
- ・平成30年度採択グループ:1年間の中間報告  
又は実績報告

### 【平成29年度 採択事業】

教育学部	75歳現役社会に対応する教員等研修プログラム開発事業
理学部	理学分野における理工系人材育成のための大学間連携体制の整備
医学部	愛媛シームレス地域医療人育成プログラム
工学部	技術英語による技術コミュニケーション力育成プログラムの新規開発と新カリキュラムへの導入
工学部	ABET基準に準拠した国際通用性のあるPBL教育の導入による工学教育のグローバル化
教育学部	プログラミング教育の高い指導力を育成する小学校教員養成カリキュラムの開発
社会共創学部	学修ポートフォリオ(ecrip)を活用したメタ認知形成の手法
教育・学生支援機構 共通教育センター	全学共通教育として求められる知財教育科目の開発と試行
教育・学生支援機構 英語教育センター	合理的配慮が必要な学生およびリメディアル学生のための英語eラーニング教材の開発
教育・学生支援機構 学生支援センター	SCVを核とした準正課教育プログラムの開発と実践「地域と共に輝く愛大生育プロジェクト」
国際連携推進機構	海外研修に関する危機管理体制充実のための学内講師養成事業



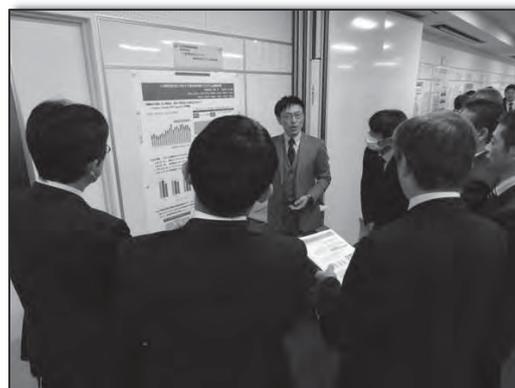
愛媛大学の教育改革について



事例報告での質疑応答の様子

### 【平成30年度 採択事業】

教育学部	全学的理数系中等教員養成の高度化と系統化に関する研究
社会共創学部	社会共創ディプロマサプリメントシステム開発と確立 ー学修成果・自己成長の客観的可視化ー
理学部	理学部改組に向けた初年次教育の改革と科学コミュニケーションプログラムの導入
農学部	JICA新留学生プログラム必修科目「日本の農林水産業の成長と開発の歴史」のe-learning英語教材開発
教育学部	キャリア形成セミナーを生かした愛大学生コンピテンシー習得と愛媛県教員育成指標達成の両立
社会共創学部	汎用的能力の育成とその成果の客観的な把握に向けて
理学部	理学部生を対象とした県内就職率向上への取り組み
医学部	準正課教育を通じて愛媛県で活躍する医療専門職リーダーを養成する
農学部	e-learning教材とSAを活用した入学前教育システムの開発
理学部	物性化学実験の大人教養化へ向けた教育環境の整備
理学部	物理教育効率化のための電子化教材の開発と活用
医学部	医学部学生に対する少人数制技能講習による外科的手技の習得
農学部	生命機能学科化学実験室のビジュアル環境の整備と学習効果の検証
農学部	1年生向け生物学用予習・復習スマホゲーム教材の開発
法文学部	中国復旦大学との教育・学術的なインターンシップ ー本学学生の学芸員資格取得に寄与する取組ー
教育学部	附属学校をフィールドとしたフィリピン大学教育学部生の短期教育実習受け入れ開拓
教育学部	愛媛の特別支援教育を米国に発信する研究志向教育実習
社会共創学部	ミャンマーにおける理工系人材育成に貢献する国際教育プログラムの構築
理学部	ロシア共和国オレンブルグ州立大学の学生を招いた課題解決型サマースクール
理学部	韓国国立交通大学校との教育研究資産の補完による研究者、高度技術者の育成ー第2ステージ
工学部	東・東南アジア地域の協定大学との双方向型短期留学プログラム
教育・学生支援機構 教育企画室	学生が主体となって企画立案に取り組む短期留学生受入プログラム
附属高等学校	グローバルマインドを育む、海外研修受け入れにおける実践的活動プログラムの発展と拡充～主体的な活動を通して～



ポスターセッションの様子①



ポスターセッションの様子②



ポスターセッションの様子③

### 3. 講師派遣 / オープン・オフィス

多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、平成31年2月末までに49機関からの依頼を受け、56件の講師派遣を行った。研修講師や研修内製化のためのアドバイスをを行う等、それぞれの組織で必要とされる人材育成の取組に、本拠点のノウハウを提供した。講師派遣先には、事後に報告書やアンケート結果の提出を依頼し、その成果の確認や今後の改善に供している。

＜平成30年度講師派遣件数＞

平成31年2月末現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
派遣数	1	1	11	9	13	5	12	4	56

＜平成30年度講師派遣先での研修プログラム例＞

- ◆アクティブ・ラーニング
- ◆教職員のための危機管理
- ◆カリキュラムコーディネーター養成研修会
- ◆インストラクショナル・デザイン
- ◆授業改善に関するセミナー
- ◆FDトップセミナー 等

＜研修講師派遣先からの声＞

- ・各大学の具体例を知ることができた。教員との連携、大学としての取組方法（各大学固有の課題別に）アドバイスを頂けたこと・講師のレクチャースタイルそのものが大変参考になった。
- ・基礎的な知識として身につけるべき内容をわかりやすく学ぶことができた。

※講師派遣先から提出された報告書の一部をP. 47～56に掲載。

また、全国の高等教育機関からの訪問調査に対応するため、年5回オープン・オフィスを設定している。

訪問対応日	内 容
平成30年 6月28日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育企画室の業務と体制</li> <li>・愛媛大学における教職員の能力開発</li> <li>・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク関係(SPOD)</li> <li>・教職員能力開発拠点関係</li> <li>・西日本学生リーダーズ・スクール(UNGL)</li> <li>・愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)</li> </ul>
10月11日(木)	
11月15日(木)	
12月13日(木)	
平成31年 1月10日(木)	

さらに、オープン・オフィス以外の個別訪問も受け付けており、今年度は8機関（10件）の依頼に対応した（平成31年2月末現在）。個別訪問の依頼を受けた際は、事前に質問事項を確認し、ニーズに最適な教職員が対応にあたっている。

<平成30年度来訪機関数>

平成31年2月末現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	海外	合計
来訪数	1	0	3	0	2	1	0	0	1	8

<平成30年度個別訪問で対応した内容例>

- ◆ 教学IRの概要について
- ◆ 国際交流プログラムについて
- ◆ アセスメント・ポリシーについて
- ◆ 教職協働組織について
- ◆ スタッフ・ポートフォリオの

運用状況及び成果について 等



<訪問対応依頼者からの声>

- ・ 本学でも実行できそうな貴大学の取組をお伺いできて参考になりました。
- ・ セミナーなどと違い、個別にお伺いすることでIRや学生・教職員に対する先生方の思いを伺えたこと、また、校舎や学生の雰囲気も感じられたことが良かったです。
- ・ 研修プログラム作成で、問題となっている費用（大学の負担、助成金、参加費の内訳）、学生の活動内容（役割）について具体的にお聞きできました。
- ・ 文書や電話では難しい内容の話を、対面で聞くことができて良かった。